

有宵会だより

第45号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

六月・七月の運勢

気学では午六月

六月六日(芒種)節入り

天道

3	8	1
2	4	6
7	9	5

破

ア

気学では未七月

七月七日(小暑)節入り

2	7	9
1	3	5
6	8	4

ア
破



一 白水星の人の運勢

六月筮一山天大畜の九三
七月筮一風地觀の六四

六月の日常生活は家庭中心にムダを省く。実際は地味に信頼を結ぶ。仕事は確実に仕上げ金銭は欲を出さない。書類の不備をチェックして無事。愛情はそれぞれ復調。消化不良、腰痛、再発用心。

二 黒土星の人の運勢

六月筮一火地晋の九四
七月筮一地風升の初六

七月は活気があるが意見や考えを止められる。仕事と金銭は逃げ腰なので堅実に。寝た子を起こさず干渉さける。実際は慢心さけ公平に対処。疲労、節と筋痛、神経停滞。

三 碧木星の人の運勢

六月筮一沢雷隨の九五
七月筮一風火家人の六四

七月の予定は先手取り好機をつくる。多方面の交際で気忙しいが爽やかに。商品の購入と社交費増です。好意から親愛の情あり、家族の絆が強い。疲労、頭痛、歯の手当を。

四 緑木星の人の運勢

六月筮一天地否の上九
七月筮一山沢損の初九

六月は忙しく早めに処理、新規プランは準備をして進める。証券や投資は変化多く慎重に判断と商談や交渉事はまともに。家庭も職場も三人協同型、情愛は伝えて吉。梅雨風邪、気管微熱など。

五 黄土星の人の運勢

六月筮一風山漸の九五
七月筮一沢天夬の九四

月は前半待機し後半に進める。生業は多忙で慌てる仕事はミスあり、月末の金銭支払は確認のこと。人情と言葉は温かく、わが家では家族を大切に。消化、寝冷え、膝痛用心。七月は目標一心に進める。力を惜しまず全力を出して好結果、目上や上司に気遣いを忘れず。家庭内に喜びと会食が楽しみ。他は内緒金のお費。頭痛、呼吸器、過労など。

七 赤金星の人の運勢

六月筮一震為雷の初九
七月筮一山天大畜の上九

六月は気力旺盛であるけれども単独より周囲の協力を求める。予定外の仕事と短気さは禁物。家族の絆を深める愛情表現がほしいとき。軽い運動に気分転換と食生活大切。のど風邪、足腰、眼疲労。七月は自己過信や曖昧な姿勢では窮地に立つ。対人関係は誤解をさけて諸事に渋滞気味でも焦らず待つ。収入面を維持し傷もの買い用心で節約。節々と筋、胃腸、腫物か。

九 紫火星の人の運勢

六月筮一地火明夷の九三
七月筮一山火賁の上九

六月は自重して成行きに任せる。気に入らず欲求不満でも口出し注意。結論を急がず、気の緩みから足元用心。誤解から杞憂をさけて安心へ。風邪とせき、眩暈、胃凭れ。七月は無事安泰の心掛け、親しき仲に礼儀あり家庭円満を望むこと。小嵐が過ぎ心身を休め英気を養う。旧友や知人の復活の嬉しさ。諸事堅実にのど食道の違和疲れ処置。

福田 有宵

大震災による記事
並びに文献からの抄録

福田 有宵

三月十一日(金)午後二時四十六分、突如予告なしの巨大地震が海から湧き上がり、誰もが恐怖心のただなかで、平常心を失っていたことでしょう。それから三十分位の後に、大津波の来襲があり被害は想像を絶する大惨状を呈しました。

大津波が来たるまでに高所に避難出来たかどうかで、生死の境となったなど報道されています。今後にさまざまな問題について検証され、後世への知識となり知恵を繋げていくでしょう。

東日本大地震に被災された皆様に心より謹んでお見舞い申し上げます。未だ行方不明の方々が多数おいでになります。一日も早く身元判明されることを祈念申し上げます。

福島原発の放射線量の厳しい地域では、遺体の捜索がなく喪に服することも鎮魂を行うことも出来ない状態です。関係者は唯々慙愧に堪えないも

ので日々のご心痛を拝察致します、謹んで合掌申し上げます。

大震災は三陸から房総まで、およそ五〇〇キロ余の海溝型地震でM(マグニチュード)は9.0の最高記録がどのようなエネルギー起きるか近い例を述べてみますと、岩波新書『大地震動の時代・地震学者は警告する』1M(マグニチュード)8の地震では、地表のすぐ下から深さ数十キロくらいまでの地底で、とつぜん生じた岩盤の激しいズレが時速一万キロほどの猛スピードで数百キロも突っ走り、東京・神奈川・千葉・埼玉の一都三

縣全体に匹敵するような広大な面を境にして、両側の巨大な岩盤が二三分のあいだに数メートル以上ずれ動くのである。時速一万キロを秒速に換算すると二・七キロで、激震は二三分の間、続くという。(石橋克彦氏)

こうしてみると、震源地から一瞬のうちに陸地を走るの、地震警報が発してから直ぐに振動が伝わるわけです。地震警報ですがテレビラジオ・ケータイで音が

出ると注意を喚起しますが、この音が嫌いになった人も多いようです。平静を掻き乱す警音かもしれません。

その緊急地震速報的中率は三割とのこと。地震計の減少、余震が多い。三月十一日の大地震の速報は8.6秒後で、宮城県や福島県で30秒以内東京で1分以上で振動した形跡でした。

さて千年に一度の大地震といわれているのは、貞観の大津波、869年の記録があるからで、近くは1896年の明治三陸地震(明治29年の丙申五黄中宮の年)で30メートルを超える津波があり歴史から見ると三陸の地震発生の頻度が高い地域といえます。

東日本大地震の津波到達は岩手県宮古市では、津波到達は時速115キロ、約800メートルの岬から岸まで約25秒で上陸したとの推測があり、住宅など一呑みになったことでしょう。三月十一日の大地震の速報は8.6秒後で、宮城県や福島県で30秒以内。東京で1分以上で振動し形跡でした。

さて千年に一度の大地震といわれているのは、貞観の大津波、869年の記録があるからで、近くは1896年の明治三陸地震(明治29年の丙申五黄中宮の年)で30メートルを超える津波があり歴史から見ますと三陸は地震発生の頻度が高い地域といえます。

東日本大地震の津波到達は岩手県宮古市では、津波到達は時速115キロ、約800メートルの岬から岸まで約25秒で上陸したとの推測があり、住宅など一呑みになったことでしょう。

過去の三陸地震津波が明治二十九年六月十五日年は丙申五黄、月は甲午七赤、日は己亥三碧でした。マグニチュード8.5被災者は二万七千人余と、今回の大地震に匹敵する被害の結果でした。前回の三陸は昭和八年三月三日(金)で、年の癸酉四緑、月の甲寅八白、日の戊辰二黒の配置でした。しばらくしての昭和三十五年五月二十三日のチリ地震津波の影響を見逃すわけにはいきません。M8.5で被災者一四二名でした。年の庚子四

緑月の辛巳五黄、日は辛亥六白と曆柱が示して来ました。チリ沖で起きた地震で、翌日の五月二十四日に日本列島沿岸に津波が襲来、三陸沿岸で波の高さは五、六メートル、家屋全壊1571で半壊は2183棟、被害を蒙ったのが五月二十三日、今年で五十一周年になります。

チリ沖地震のときの恐い津波を教訓にした人がいました。東松島の佐藤善文さん(77)が10年前から、裏の岩山30メートルに災害避難所(津波)を一人で作り、70人の命を救ったとのこと。

九死に一生を得たのは石巻市の倒壊家屋十日後に発見された阿部任さん(16)寿美さん(80)の救出は最高の朗報。気仙沼市では魚市場の高さ十メートルの屋上に避難した600人は被害を免れた事。宮城県だけで約14万6千台の自動車は津波で流されたが、病人ではなく自力で逃げられる人は車に頼らない事など、様々な結果をもたらしたが災害時は正常な判断力を失うことが如実に現れ、悲痛な叫びが聞

こえてくるよつです。この小文は大地震の一部の記録を留めたいの思いを書き、雑駁な纏めになります。ご容赦の程。まず都内の各教室の皆さんが大地震のとき、どんな様子であったかを聞いてみましたところ、横揺れ大揺れの振動で立つていられない驚異と恐怖心に襲われたとの実感です。その後外出が怖いと不安な方が増えたよつで、三月はともかく四月においても警戒心が続いてしまったとのこと。

室内は家具類の転倒は少なかつたものの神札が落ちたり、仏壇の中から位牌が畳に転がったりしたのが八件あり、墓所の心配があつたのは福島と茨城県、墓石の様子を尋ねられたり、転倒したので今後の処理についての問題。テレビが壊れたので新規買替えが三名など。電車の中にいて心配と狼狽で身が縮んだこと、一瞬子供の様子を思い冷や汗が出たことなど、たいへん臨場感に溢れています。スポーツクラブの水泳教室ではビルの外への誘導を目にして心配したり、ご本人は他の競技

で外へ出て寒かったとの感想があり、大なり小なり地震の余波が降り懸かったり、けれども大事に至らず無事であったので安心した次第でした。東北に親類縁者が行方不明の方々がおり、数日が過ぎご心痛と無念の意志が表れていました。

三月十一日午後2時46分の地震の時、同時に

易の卦を出して得たのは、地水師の九二でしたので師の勢いが強く一気呵成に奮動する激しさがあり、厳しい卦です。地中に水があると象伝は海水であり海底の動きが起きるとみましました。師は戦争の意があるので、平治の乱が近づいているわけです。

得卦の三十分後にあの大津波の来襲があり、大惨事が次々とわかり、卦が示していたことがわかりました。

当日の夜半に復旧について、地沢臨の上六で、敦臨であるので信義に厚く善処していき復旧ありの見通しです。象伝に八月に至りて凶ありとの辞は、特に変事は起きないものと判断します。一応の復興は五年位の中期間で成す臨卦です。

地震予知はなぜできなかったのか。雷沢帰妹の初九でした。事前に予測することが出来ず、後手に回り臍をかむ思いがあります。気象庁や地震予知連絡会において予想を出すのが厳しく科学の力をもつてしても、地震に対する答えは現在のところ解明が将来に期待したいものです。

福田 有宵



東日本大震災の一騒動

牧野 有峰

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分大震災が発生しました。

私は、前日の夜、家族と団らんの中、明日取手教室の授業を終えたあと、柏市内にあるデパートで買い物をする予定であると話したところ、「買い物をするなら自動車より電車の方が目的地まで時間的に確実であり、早い

のでそうしたら」と言われ当日は自動車ではなく電車で行くことにしました。

当日は、普段と変わらず予定通り午後一時から取手教室の授業を行い、午後二時三十分に終え、これから予定していた買い物に行こうと五階（取手駅ボックスビル六階建）から出口に向かおうと階段にて下りている途中、

三階に着いたところ突然グラグラと今までに経験したことのない大きな揺れを感じました。同時に私の携帯電話に緊急地震速報が流れ、地震という感覚の中、間もなく横揺れで足元がふらつき立っていられませんでした。そうした中同じ、フロアにいた人達も驚きと同時にわれ先にと出口にある大柱に殺到、皆表情が強張っているのが映りました。私も無我夢中で皆と同様に大柱にしがみつきました。

その揺れの時間は、ハッキリ覚えておりませんが二、三分位続いていた様な感じでショックと恐怖、さらにこの建物は三階で駅広場とつながっており、激しい揺れによる建物と

広場のつなぎ目がギンギンと音をたてて、つなぎ目が離れ倒れるのかと気が気でなく、もうこれで人生も終わりかと思うほど長い長い時間を感じられました。

余震が続いている中大柱にしがみついている大勢の人の中に一人の女性は「この柱は大丈夫ですから動かないで、動く危険です。怪我しないように治るまで待ちましょう」と震えおののいている強く人達に力強く声をかけ励ましてくれたことが印象的でした。

一旦地震が治まったので買い物と思い、電車に乗車したのですが再び大きな余震が起き、駅員から「電車が不通になり運転の見通しはありません」と放送がありました。私は予定していた買い物は止めて家に帰ろうと思い、タクシー乗り場に行ったのですが、乗り場は長蛇の列で乗車できるまで三三時間はかかりそうなので、別のタクシー乗り場に行きました。そこでも順番待ちで一時間程待ちまして、私の番まで十数人になり、やっと帰宅できると安堵していたところ

警察官と駅員が来て、この辺一帯は危険です。さらに「津波が利根川から押し寄せてきて利根川が氾濫しそうです。至急高台に避難してください」と、衝撃的な放送で小雪降る寒い中、店の方や家にいた人と一緒に疲れた身体を誘導されるまま高台まで、歩きました。高台で一時間位避難してたのですが、津波警報は誤報と知り、再び取手駅に戻りました。その後揺れは何度となく繰り返し、帰る交通網も制限され、いつ帰宅できるのかわからない気持ち次第に強くなり、途方に暮れていると、駅員から「タクシーは三三時間待ちです。バスが動いたとの連絡がありました。帰宅される方はバス乗り場まで待つてください」と放送が流れてきました。約一時間後にバスが来たときには、私も含め多くの方の表情が明るくなり、嬉しかったこと

は今でも鮮明に覚えていません。約五時間余り不安の中取手駅にてウロウロしていました。やっと家に着いたのが夜の八時です。今回の地震で、家族を

始め知人も携帯電話がつながらず連絡が取れない状況を経験しました。普段から「いざというときはこうしよう」と決めておくことの「絆」を深めておくことを強く感じました。

牧野 有峰



LAVENDER

東日本大震災から 思うこと

半田 晴詠

今日五月十一日は、あの未曾有の東日本大震災から二か月、テレビ等で被災地の人達のいまだに悲惨な生活を観る度に心が痛みます。この二か月の余震、原発事故と不安な毎日先の見えない不況の中で、桜の季節も過ぎ若葉の美しさも例年とは違う複雑な思いで見えています。パブル崩壊後の日本は、不景気と云いながらも物資や情報にも恵まれ、日常的な不安のない生活でしたから、私自身この震災に呆然とするばかりです。地震当日は普通なら二時間くらいで帰宅できる仕事先から七時間ばかり危うく帰宅難民になるところでした。

この震災を機に今迄の平穩な生活の有り難さをつくづく感じると共に、いつ起きるか解らない災難に、どのように備えをすべきなのか考えさせられました。以前有宵会にも参加されていた芳賀さんは、五年前に宮城県登米市でこ

実家の神社を継がれ現在は神職に就かれておりまして、現地で被災されました。芳賀さんは筆まめな方で、折々にお手紙をくださいます。この度も地震の様子と震災の実体験からの備え等お手紙を頂きました。皆様のお役に立つのではと思ひ、承諾を得ましたので抜粋して記載いたします。

「被災した日は、寒い日でしたので暖房が必要かと車のエンジンをかけたまま母を車に乗せ、私は建物の中に居ました。グラツと大きく揺れたかと思つたら停電、自動ドアが開かなくなり手動に切り替えている間にも窓の外は大きく揺れ、外に出た時には入口の柱の土台から土が吹き出し、立つていたら危ない」と私の腰を掴む人を振り払つて、車のエンジンを切りに行く時に又大きな揺れで身体は車と反対の方へ飛ばされ腰を強打されました。車はサイドブレーキを掛けてあつたものの前後左右に動き、中にいる母が窓を叩いて早く出してくれと叫んでいるのに一歩も動けず、やっと車から出した頃に前面の建物は倒壊、

空を見上げると電線は大縄跳びのように揺れて、雲がおおいかぶさるようになって感じられました。その後自宅にいる父を思つて車を飛ばし夢中で帰宅、無事を確認したものの電気もなく情報もストップ、地震も津波もこの辺にとどまらず広範囲に渡り被災している事も知らずになりましたので、良いのか悪いのか余震で揺れる中を徒歩で、氏子さんや身内の無事を確認し帰宅、その後ラジオで知り、知人友人はどうだったのか心配が大きくなりました。揺れた後急に雨になり大雪(ポタ雪)になって夕方方は空が青くなつて変な日でした。そして何より鮮明に脳裏に残っているのは、その日の晩です、真つ暗な中外に出ると月夜でした、美しい月夜、星の数が空一面に隙間がない位煌めいていて、一瞬にして天に旅立つた尊い命の灯りがあの星の数だけになったのでは無いでしょうか、異様な神秘的なその光景を一人で見てはいけない様な気がして母を呼び、二人で空に向かつて手を合わせました。その星空は二日目

の晩も同じよつてした。備えとしては普段の常備薬の他に眼帯や三角巾は思いがけず使用することとなりました。小さなカイロ寒い日はもちろん暑い日も、水や衛生上の問題でおなかをこわした時に、又冷えピタも。塩水が身体ごと濡れても真水を発症するので、皮膚炎の薬。病院もストップするので薬は望めません。人によつて血圧などは、落ち着いている日は薬を半分にして持ちこたえました。灯りは懐中電灯を天井に向けてと明るさが広がります。床にアルミを敷くともつと明るくなります。反射式の石油ストーブ、湯タンポ等暖をとるのに大きな働きをしてくれました。一年を通して考えるべきでしょう。夏は団扇や水にひたすだけでタオルのように首にかけて体温を下げる物や虫除けスプレー、外で過ごすことになる事もありません。ソーラーラジオ(ライトやサイレン付)等々です。

上げられるような長い揺れに、三月十一日の本震を思い出すのに充分な衝撃でした。電気も水道も再度ストップ、ですがでも考えてばかりいても何も変わらないので、明日のために寝ようと服を着たまま布団にもぐり、静かな朝が来ました。今はライフラインも復活しました。その頃は春の大祭を控えその準備もありクタクタでした。しかしこうして先に望みを持つて仕事が出来るとは、幸福なことであり生を与えられた私達は定命の日が来る迄頑張るべきなんだと話しています。

今でもリュックを背負つて仕事をしています。そんな事がいつか笑い話になる穏やかな日が来ることを願っています。毎朝のご奉仕もガクツと「きたらすくローソクを手で塞げるように一本だけ燈しています。」以上が四月に頂いた芳賀久子さんからのお手紙です。

不安な不便な日々を過ごしておられます。普通の生活が出来私達は本当に幸福と思ひながら、被災地の皆様に支援もできない自分の無力さを感じております。せめてこの震災を教訓として、災難に戸惑うことの内容に自己管理したいと思ひます。末筆になりましたが、この震災でお亡くなりになられた方々のご冥福と被災地で一生懸命頑張つておられる皆様の一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます。 合掌

今日五月十一日のお便りには、余震の影響で今日から十四日迄期限付きの止水ですとありました。この様に被災地の皆様は

今回の地震で杉並区の家が倒れました。なぜ灯籠が倒れたのか、また、その様子から私なりの考察をしたいと思ひます。一度目の地震の後すぐに家に戻りました。そのときには、既に玄関先から見える一八〇センチほどの高さのある灯籠は、



灯籠と心

若林 シマ

ローマの遺跡のようにバラバラに崩れていました。一番上の石はその足元に。傘にあたる部分は、かなり遠くへ飛び、隣家の塀に寄り掛かっていました。すべての部位は、ほとんど原形をとどめていました。たが、そのために床のコンクリートが割れていたもので、とても危険を感じました。一つ置いて灯籠の台に当たるところもなぜか傘と重なって寄り掛かっていたので、よほど左右の振れが激しくないと説明できないなあと思いました。竿(サオ)の部分は手前の足元においていたところに転がっていました。この灯籠は、

昨年5月に家の壁と隣家の壁の狭い空間に無理に設置したので、隣家の壁を壊していなかったこと、我が家の家側にはぶつかっていなかったのが、幸いでした。

不思議だったのは、灯籠の真下に、沖繩の吉方旅行の際に購入したシーサーを二つ、飾っていたのですが全くの無傷で、崩れた灯籠石の隙間から顔を出していました。以前、掃除の際にホウキがコチ

ンと当たりしつぽが欠けるほどの繊細なシーサーの置物だったので、二つとも無事に取り上げた時は本当に目を疑いました。

近隣は、瓦屋根の尾根の部分に崩れていましたが、一方で別の隣家の庭にあって我が家と同じサイズの大きな灯籠は無事に立っていました。その時は、我が家の灯籠は土台の設置が悪かったのかとも思いましたが、のちに片付ける際に土台の下の立派な敷石をみて、やはり意味があつて崩れたのだと理解しました。

家の中の様子は、家具飾り棚が五センチほどずれていたことと、夫の実家を建て替える時に使おうと購入していた大きな水晶の玉が床に落ちていたこと、その他は、金魚鉢から水がこぼれていたくらいでした。特筆すべきことは、その日の朝、

普段は使わない座布団を仏壇の前に二枚重ねて置いて出掛けた事です。震災後その上に、なぜか亡義父の位牌がひとつ仏壇の奥から飛び出して、無事に？落ちていました。どうやって座布団までたどりついたのかシュミレーションしましたが、わからずじまいでした。

地震の後、遺跡のようになつた灯籠を自転車置き場から毎日眺め、処分するしかない心が納得するまで時間が必要でした。残念で、崩れた灯籠を写真に残す気にはなれませんでした。そのよつな中、灯籠を設置した庭師さんが訪ねてきて、片付けますよ。と声をかけてくれました。夫の「初めから何の未練もない」との答えに、夫の実家の形見。とこだわつていたのは私だけだと気が付き、片付けました。偶然にも、その翌日、福田先生よりこの原稿の依頼を受けました。書けば気が休まるでしょうと言っていたとき、灯籠には心があると実感しました。

動より吉凶生ずる。すべては、この灯籠がきっかけでした。

昨年の三月、夫の実家の灯籠を残したい。と名古屋に住んでいる私の実家の父に相談しました。濃尾地震、阪神大震災の体験者である父は、灯籠は飛ぶよ。と反対していましたが、実家に置けば

合祀になると心配していた私に配慮して、全面的に空き家を提供してくれました。急な話だったにも関わらず、五月には年月ともに八白中宮の年、西方位へ一白が大吉方となつた為、三碧の夫と長男とともに灯籠と引越越しをしました。設置場所は、東北(鬼門方位)暗剣殺でした。

そして、今年三月は、年月ともに七赤中宮です。一白が東北に回座し、結果が出ました。

跡取りである夫と息子にとつて、東北の八白の象意である親子、親せき、財産の保全いずれも解決していく課題があるように思っています。

易の卦は、灯籠を墓とし設置場所の東北を考え併せ、また形から、大良風地観 としてはどうであろうかと考えました。灯籠は灯りです。明かり、道標(みちしるべ)を失つたともみまます。地震によつて倒れたにせよ、「こつした状況を 風地観は、よく観ること。」私に与えられたメッセージだと感じました。

庭の灯籠について、気学奥意には、「その面積

に比し滅多置くべからず。」と書かれてあります。写真のように、この狭い空間に置いたことは、全く持つて分不相応なことでした。

この灯籠を人体に例えて、健康状態や様子を見ることができると思いますが。六部位から成つているので、下から、一、土台は足元。二、竿(サオ)はひざ。三、灯の台座を腰。四、灯部を胸。五、傘は目の辺り。六、頭。とすると今回は、傘の部分が少し欠けたので、目の辺りは要注意です。また、節がバラバラになつたことから、関節、腰に気をつけて生活しようと思えます。

今回は福田先生より、七日間のお清めをしてくださいとの御指導をいただきました。

すべての灯籠が我が家の様になぞらえるものではなく、心のあるものと思ひます。都心では、ビル等に建て替え後、片隅に灯籠が残されている例があります。おそらくオーナーの心があるのではないのでしょうか。心がある場合は、墓と同じ扱いで

す。やはり塩でお清めをします。

こつして、さまざま現象を点として、つなげて線として観ると、灯籠、義父の位牌、水晶、すべて亡き義父からのメッセージであるように思えます。いま、灯籠を処分したその場所に、白い花の樹を植えて楽しもうと話合っています。灯籠があつた場所は、前向きに嬉しい場所として変化したこと。また、灯籠が私達家族の大吉方の引越越しのきっかけになつたこと。この地震を通して気づかされたことはあまりにも素晴らしいことでした。そして、二人の父に感謝せずにはいられないです。

地震後の様子



夫の実家(引越前)



地震後の様子

平成二十三年五月
若林シマ

三月十一日の私の日記から

佐藤 宗眩

あの日は二度ビックリしました。

地震は震度六強！体験がありませんでしたので自宅を飛びだし庭へ…庭の地面も波打ち何かに掴まっていけないと、とても立っていられない状況でした。県道を走る車も道路が歪み、走れる状態ではなかったです。

また周りの何軒かの家は屋根瓦が落ち、皆外に出ており、かつて経験した事がない怖い地震でした。

もう一つの驚きはネットの反応の早さでした。私は六年前から毎日楽天ブログで「宗眩のオリエンタルスピチアル日記」をつけています。その日の朝に易を立て「宗眩の今日の易占い」として掲載しております。

『3月11日の易占い』掲載した時間 3月11日午前5時38分1秒（記録通り）

山地剥（サンチハク）四交 災害が身に迫っています、出来るだけ予定

の変更を試みる必要あり。他人の計画実行で損害を受ける可能性あり。今日は新規ごとは実行せず後日に備えよう。

このように書き込みをしました。

そして…あの地震…

次の12日から、メールや電話が毎日2週間程ありました。

「どうしてわかったのですか？」、「助かりました。あの日予定変更しなかったら…」等の質問が大部分でした。

私はその都度…私に力があるとか、霊力があつてそう書いた訳ではありませんよ！

その日その日の朝、易を立て今日の易卦を易神に問い願ひ、得卦を得てそれをそのまま文章にしただけで、私に力は何もありませんよ。と答えて来ました。

何故易神は私に山地剥を与えたのか…

改めて易学の深さ、怖さを知り勉強は死ぬまでなのだと思います。

被災に会われた方々に心よりお見舞い申し上げます。



金華山神社の大地震について

今回の東日本大地震で金華山が最も震源地に近かったのではないのでしょうか…

私は5年前より毎年一度参拝を続けており今年も六月頃に行く予定でした。

金華山神社とは宮城県石巻市にあり、牡鹿半島の沖1キロ程に浮かぶ金華山は、周囲26キロ、

最高点で445メートルの小さな島です。

恐山・出羽三山と並ぶ奥州三大霊場の一つと云われ島全体が御神域となつています。正式には金華山黄金山神社で通称金華山神社と呼ばれています。

金山昆虫古神（かなやまひこのかみ）・金山昆虫神

（かなやまひめのかみ）を奉祀し創建された神社で辨財天さんがお祀りされており、三年続けて参拝すると金銭のご利益があると言ひ伝えられています。

仙台駅より仙石線に乗り石巻へ、石巻からさらに石巻線で女川まで行き女川より定期船に乗り金華山へ。もう一つのルートは石巻で降り、バス等で約一時間鮎川まで行きそこから定期船に乗り金華山へと二つのルートがあります。

3月11日、あの地震以来毎日のように電話で神社さんに連絡して来ました

が、連絡とれず…4月末になり、ようやく宮司さんと連絡が取れ、

『地震は大変でしたが、お陰様で多少の被害はあつたものの参拝者さんも、鹿も猿もお店の従業員の

人たちも全員無事でした。ただ五月の初巳祭は現在

内々で執り行おうと思つております。』とところで地震当日参拝者はいらつ

しゃつたのでしょうか？との私の質問に…

『居られました、23人おられ当日は皆さんにお泊りいただき、翌日お帰り

になりました。』

もしお差し支えなければ、そのうちのお一人でもご紹介頂けないでしょうか？

そして仙台にお住まいのSさんをご紹介頂き電話取材をさせて頂きました。

当日はどんな状況でしたか、お聞かせ頂きたいのですが。宮司さんからのご紹介の事もあり快くお答え頂きました。

Sさんのお話 『3月11日の午前中参拝をいつも

のように終え、3時金華山発鮎川行き船に乗船する為、船着場の待合室

で2時30分頃から待機してました。私他に4人

程待合室には居りました。突然2時46分に大きな揺

れがきて、テーブルの下に隠れたもののテーブル

は移動するし、店のものは倒れたり、トタン屋根

がガターンと物凄い音をたてて崩れ落ちてくるし

とてもその場にいられないので棧橋の方に逃げる

と、棧橋の崖が大きく崩壊し始めて来ました…

その後直ぐ、『まもなく6メートルの津波が来ます。避難して下さい！』の放送がスピーカーから鳴り響きました。津波を避け

る為には神社へ向けて坂道を駆け上がるしかなく、狭い坂道は、亀裂や樹木の倒壊、崩落した岩を避けながら必至の思いで駆け上がり神社にたどりつく

と境内の参殿前の鳥居は根元から倒れ、灯籠などもめちゃめちゃに壊れていました。

さてさてこのあとどうしたら良いものやら…考えあぐねていたら

神社さんから「皆さん神社の本殿の方へどうぞ…」

の声 神社から温かく迎えて頂きました。まさに救いの神様です。

時間も5時近くになりお腹も空いてきたな〜と思つ

ている時、神社さんから夕食におにぎり2個に熱々の豚汁を振舞って頂き、

まさに地獄に仏…夜も本殿を提供して頂き、

畳の部屋も土足で歩きなさいと言われ、また敷布団・毛布・掛け布団の寝具の提供まで受け 靴の

まま寝るようにと、特別な計らいまでいただき…

余震は何度も震度5程度に見舞われました。宮司さんのおっしゃっている意味がよく理解できまし

た。本殿の屋根瓦がぶつかり合う音は、とても寝れる状況ではなかったのですが、暖かい布団に、暖かい心に包まれていつしか眠りにつきました。

翌日12日 外界との通信は不通で、神社さんにお礼を言い取りあえず船着き場に行ってみました。なんと鮎川汽船の船が待っておりまして。奇跡です。聞いてみますと

鮎川からの船は11日当日無線で、地震と津波の発生のお知らせを受け沖合に避難さらに一泊停泊し、12日昼に金華山まで迎えに来たとの事・・・鮎川まで船で送ってもらい避難所に5日ほど宿泊させて頂き、その後はヒツチハイクの要領で7日目に仙台に到着し自宅に戻れました。

Sさん曰く。どんな表現をしてもあの恐怖は遭遇したものでなければわからないと思う。また鮎川汽船の方々、金華山神社の皆さん本当にありがとうございました。と書いておられました。写真を送っていただき

ましたので使わせていただきます。

今回の大地震は各方面に甚大な被害をもたらしましたが、また新たな気持ちで頑張ろう日本！

また金華山神社さんの一日も早い復興を祈願いたします。

佐藤 宗眩

地震前の船着き場



地震後の船着き場



金華山を襲った二回目の大津波十五メートルはあったそうです。

NPO法人 岳易館・有宵会 通信

東日本大地震から二ヶ月半被災地の皆様には大変な毎日をお過ごしのことと心が痛みます。

当会では、義援金をつのり多くの方々から貴重な御芳志を頂きました。延べ二百五十名の方から金五十万円が集まり去る五月十七日松戸市役所支援課に納めて参りました。そこから日本赤十字社へ回ります。(御芳志をいただいた方のお名前は別紙に記載しました) ご協力を頂き有難うございました。



岳易館徽章のご紹介

有宵会のバッジは八宮を現わし易を象徴したデザインで幸運を込めたものです。

一個ごとに個有の番号が刻印されています。まだ少し在庫があります。会員登録の方には是非着用してください。(一個 五千円)



事務局だより

次回の例会

七月三十日(土)

午後一時十五分

『足立区こども家庭支援センター』にて

開催

例会後 懇親会予定

講演 菅原有恒先生

書道と筆相についてのお話です。

吉田侑加先生

続『宿曜占星術』

日本占術協会 『総会』

六月十二日(日)

午後二時より

九段下

ホテルグランドパレス

で行われます。

有宵会の旅行 検討中です。

去る三月の有宵会例会は大震災により会場使用不可のため止むを得ず中止となりました。

会が始まって以来の休会でした。

皆さまは如何ですか、大変な毎日と思いますが

お体に気を付けてお元氣にお過ごし下さいませ。

伊藤 璃香

編集後記

今回は震災特集号として発行させていただきました。また、この度の大地震で被害に遭われました方々へ心よりお見舞い申し上げます。

またこれからも事務局並びにスタッフ一同頑張りますので皆様方からの原稿をお待ちしております。

編集人